

喜沢小学校の授業カリキュラム変更

Q 喜沢小学校の授業カリキュラムが変更され授業時間が短縮された。喜沢小学校は国から指定された研究開発学校として、令和10年まで通常授業を午前中に40分×5時間とし、午後に学びの場の時間をつくる制度に変わった。これにより、基礎学習の時間が不十分となるデメリットもあると捉えられる。また、外国籍の子どもが多く、日本語のケアをするため授業が遅れがちであると聞く。子どもに自由時間を与えることは、柔軟な時間の使い方ができる一方、遊びやゲームで学習が遅れてしまうというデメリットもある。今回の新カリキュラムへの移行に当たっては、保護者への十分な説明・同意もなく、市の決定事項を事後報告されたと考えられる。保護者からデメリットを懸念する声があがっており、アンケートを実施してほしいと提案したものの、校長から実施できない旨の回答があった。保護者のリアルな声はどのように届けられよいのか伺う。

A 学校は国の審査を得たうえで学校運営協議会での協議や保護者説明会を行ってきた。一方で、新しい取組であることから、保護者にとって、趣旨や具体的な内容がイメージしにくい面もあったかもしれない。今後は、児童や保護者アンケートも実施しながら取組の検証をするとともに、必要な情報を分かりやすく伝えるよう努める。



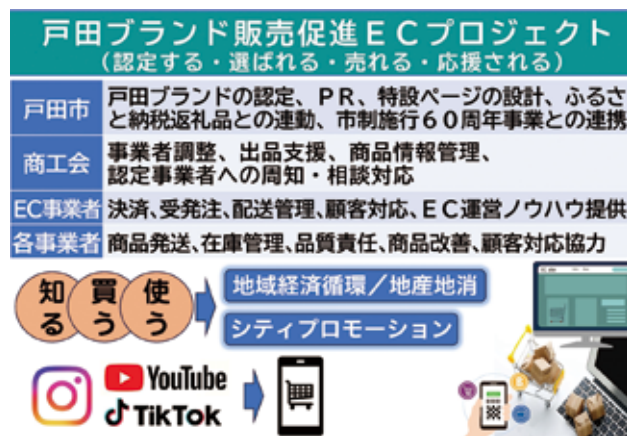
戸田ブランド販売促進 ECプロジェクト！

戸田ブランドの認定と販売促進

Q 市内商工業の魅力ある商品などを優良推奨品として認定する「戸田ブランド」について、認定・紹介のみではなく、ネット注文、ふるさと納税返礼品などにつなげる「販売導線型」のサイト構築について伺う。

A ECサイトの構築は、運営主体による商品や配送管理、問い合わせ対応などの仕組みを整える必要や、ネット販売を実施していない認定事業者の存在など課題がある。今後商工会とともに調査研究を進めるが、まずは既存のWEBサイトの改善に向けて検討する。

意見 推奨認定されたブランド品として育成し、認知度を高め、販売促進につなげることが重要。そこで、販売導線型サイト構築・運用に向けて、商工会・認定事業者・民間EC事業者と連携した「戸田ブランド販売促進ECプロジェクト」を提案する。他の販売促進事業や市制施行60周年事業との連携と併せ、その先のシティプロモーションに結びつけてほしい。



補助金・助成金の適正な運用について

Q 「戸田市補助金等調査検討委員会」の審議基準は。

A 補助金等交付規則の中の公益性、公平性、有効性、適格性の基本事項等の各評価項目につき、個別具体の評価基準が定められ、評価票で審議し点数化する。

意見 1回が限度の「がん患者医療用補正具購入費補助金」があるが、「アピアランスケア支援」*へ向けて、再発・転移・長期治療・治療内容変更、一定年数経過などの場合には、2回目以降の補助を認めるなど、より実態に即した制度への見直しを希望する。



骨粗しょう症検診を受診しましょう

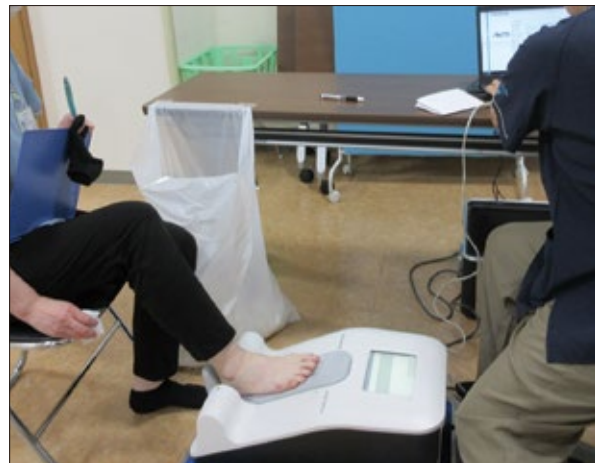
骨粗しょう症検診について

Q 骨粗しょう症検診の概要は。

A 検診の対象者は40歳から70歳までの5歳刻みの女性で、個別に案内を送付し、9月から集団検診として土曜日を含め5回実施する。検診では、食生活や運動習慣の問診のほか、超音波機器によるかかとの骨量測定と、その場での結果説明を行う。保健師・管理栄養士による予防のための食事や運動等の指導を行い、生活習慣は骨の強さや骨折と深く関わっていることを理解していただく。

Q 検診後のフォロー体制について伺う。

A 検診の結果、要精密検査に該当する方は蕨戸田市医師会加入の整形外科への受診を勧め治療につなげる。このほか、生活習慣を見直すきっかけとして、骨粗しょう症予防の教室を案内する。



骨量測定

防犯アプリの活用

Q 防犯アプリ「デジポリス」や「詐欺バスターLite」の活用について伺う。

A 現在、蕨警察署から、警察庁が推奨する「詐欺対策」と「詐欺バスターLite」の2つのアプリの周知と活用促進の協力依頼を受けている。防犯アプリの活用については、特殊詐欺などの被害防止に大きな効果を発揮するものと考え。今後、市ホームページへの掲載のほか、蕨警察署から提供されたチラシも活用した、主に高齢者の方が参加する市内イベントなどで周知啓発の徹底など積極的に登録を促す。



彩湖 BASEは市民の自慢の財産です

笹目川流域治水の推進

Q 笹目川の特定都市河川指定を受け、今後の予定は。

A 笹目川流域水害対策協議会が設置され、令和9年3月中の計画策定を目指し、ハード・ソフトによる総合的な浸水被害対策の検討を進める。

意見 協議会が単なる情報共有の場にとどまることなく、上流域であるさいたま市側に対しても、確実な流出抑制策について本市が主導権を握った実効性のある議論の場となることを求める。市民や事業者が前向きに取り組めるよう、雨水貯留対策の支援策や補助制度を拡充するなど、市民が参加しやすい環境づくりもあわせて進めることを要望する。

彩湖BASEの市民利用と市民還元

Q 彩湖BASEは、市民が利用しやすい仕組みが重要。市民利用と市民還元について市の考えを伺う。

A 本施設は、地域の活性化にも資する貴重な施設と認識しており、多くの市民の皆様にご利用いただきたいと考える。

意見 市民還元の視点に加えて、にぎわい創出や収益確保にもつながる施設として経営目線が重要。例えば、ふるさと納税の制度を活用するなど、市外の方に本市の魅力を体験していただき、その対価を市の財源とし、市民サービスや施設の充実に還元していく。市民には「最大の還元と学びの場」を提供し、市外の方から「戸田の魅力の対価」をしっかりと頂く。そして、その収益をさらなる市民サービスや施設の充実に再投資していき、持続可能な施設となるよう要望する。



彩湖BASEの宿泊キャンプ場